

温泉地における歩行空間に関する研究

—静岡県伊豆市修善寺温泉を対象として—

A Study of pedestrian Space in Hot springs

—A Case Study Izu Shuzenji Hot spring in Shizuoka—

○森春樹¹, 横内憲久², 岡田智秀³, 角田裕紀⁴

*Haruki Mori¹, Norihisa Yokouchi², Tomohide Okada³, Yuki Thunoda⁴

Abstract: The purpose of this study is to stroll through the town for the promotion in hot springs. There fore chased the change of the walk space in this report for Shuzenji hot spring. As a result, the attractiveness of walking space was improved, it was found that ensuring safety is a problem with previously have not been able.

1. 研究背景および目的—国土交通省は 2007(平成 19)年に, 観光を 21 世紀における日本の重要な政策の柱として明確に位置づけた「観光立国推進基本法」を施行した^[1]. また, この法律に基づき政府が策定した「観光立国推進基本計画」では, 温泉が貴重な自然資源であり, 国内外ともに関心の高い観光資源と位置づけられている^[2]. また, 温泉旅行の人気は国内では 1 位, 国外では 5 位と人気の観光であり, 重要な観光資源であることは明らかである^{[3][4]}. しかし, 多くの温泉地では観光形態や社会状況の変化により, 観光客数が減少し衰退が進んでいる^[4]. それに対し, まち歩きを促進させることにより, 温泉地を活性化させる動きがある.

本研究では, 静岡県伊豆市修善寺温泉を対象事例とし, まち歩きを促進させるために, 過去に挙げられていた歩行空間の問題点や対策案に対し, 現状と比較することで, 歩行空間の変化について把握することを目的とする.

2. 研究方法—本稿では, 静岡県中小企業総合指導センターが発行した「平成 4 年度修善寺町観光(産地)診断報告書」に着目し, 当時挙げられた問題点や改善案と, 現在の状況を比較することにより, 改善状況と効果について考察する. また, 観光関係者が考える今後の方向性について把握する(Table 1).

3. 修善寺温泉の概要—修善寺温泉は 807(大同 2)年に弘法大師が訪れた際に独鈷の湯を発見したことをきっかけに, 同時期に開基された修禅寺を中心とした温泉地である.

江戸時代以前から七つの外湯^{*1}を中心とした湯治場として栄え, 明治時代初頭には, 内湯^{*2}をもつ旅館の誕生により温泉地として発展し, 豊富な自然と史跡が多く, 文豪や富裕層に好まれた. その後, 交通機関の発展による観光客の増加により, 特定の人々を対象と

した温泉保養地から一般大衆向けの観光地へと変化した^[6]. このような歴史的な背景や, 首都圏からのアクセスの良さもあり, 1880(明治 13)年の年間宿泊者数は約 10,000 人であったが, 1907(明治 40)年頃には年間約 130,000 人へと急増した. しかし, 近年では 1990(平成 2)年がピークであり, 観光客入込数は 4,247,092 人, 宿泊客数は 950,368 人であったが, 2010(平成 22)年には, 観光客入込数は 1,244,291 人, 宿泊客数は 300,901 人にも減少している^[7]. そこで, 2000(平成 12)年に, 修善寺温泉が日本人のノスタルジーとロマンあふれる湯のまちとなるように, 「ノスタルジックロマン」をテーマに掲げ, まち歩きを中心としたまちづくりが現在進められている.

4. 結果および考察—本稿では, 「平成 4 年度修善寺町観光(産地)診断報告書」に記載されている問題点と改善案から, まち歩きに関係する項目に着目し比較する.

4-1. 遊歩道の整備—平成 4 年の提言では, 観光スポットを結ぶ遊歩道不足による, 観光動線の弱さが挙げられ, その対策として, 遊歩道の再整備による観光動線を明確にすることが提案されていた. そして現在では, 「竹林の小径(Photo 1)」、「風の小径」、「桂遊通り」の 3 つの遊歩道が整備された(Figure 1). その結果, 遊歩道が修善寺温泉の新たな観光スポットとなった. また, 離れた観光スポットへの歩道が確保されたことにより, 観光ルートの変化や歩行空間の拡大へ繋がった.

Table 1. Out of research

| 調査方法 | 文献調査 ^[9] | ヒアリング調査 (電話形式および直接面談形式) |
|------|-----------------------------------|--------------------------------|
| 調査期間 | 2012年8月1日~9月30日 | 2012年7月28日, 8月23日, 9月7日 |
| 調査対象 | 温泉場地区 | 行政, 旅館, 地元関係者 |
| 調査事項 | ○当時の現状 ○抱えていた問題点 ○提言している改善案 | ○近年の変化 ○抱えている問題点 ○今後の方向性 |

1: 日大理工・院・不動産 2: 日大理工・教員・建築 3: 日大理工・教員・交通 4: 日大理工・学部・建築

4-2. 「七つの湯」の復元—活性化の重要対策として、明治時代にあった「七つの湯」の復元が提案されていた。これは、「七つの湯」が江戸時代以前からあったとされた共同浴場であり、町民と観光客の「ふれあい」の場として、街並みを形成する上での核施設であったからである。また復元は、湯の街としてのイメージアップと、川沿いに東西に配置されていたため、お湯を巡る東西の観光動線の形成を目的としていた。その結果、現在までに外湯の共同浴場「菅湯」および足湯の「河原湯」の2つが整備され、新たな観光拠点が復活した。

4-3. 交通問題の解消—温泉街は車道の道幅が狭く駐車場も少なかったため、道路が混雑しており歩行者の安全性が確保できていなかった。そこで、主要道路に一方通行の規制をかけ、循環道路とすることや、大型車も駐車可能な大小2つの公共駐車場を設置し、街区内循環道路のターミナル的役割を持たせることを提案した。現在では、大型車対応の駐車場の設置と一部大型車の交通規制により、大型車が修善寺温泉街内部を通行できないようにし、道路混雑が緩和された。しかし、一方通行の実施にはいたらず、歩行者の安全性の十分な確保はなされていないといえる (Photo 2)。

4-4. ヒアリング調査—Table 1 のヒアリング調査の結果、どの関係者も問題点は歩行空間の安全性の確保であった。これは、平成4年に提言された主要道路の一方通行化の実施につながるが、地域生活者との利害が絡む問題のため、合意形成が進まず現在に至っている。しかし、いずれの被験者も一方通行化もしくは時間制の歩行者天国化などの対策による安全性の確保が、今後の修善寺温泉の発展に不可欠と考えている。また

安全性の確保にともない、今後はまち歩きを促進を考えているが、夜間と早朝のどちらのまち歩きを促進させるかに、旅館関係者と地元観光関係者の考えに相違が存在している。

5. まとめ—以上より、遊歩道の整備、「七つの湯」の復元、駐車場整備により、歩行空間に魅力が向上したと観光関係者は述べている。しかし一方では、主要道路の一方通行化が進展しておらず、以前から抱える問題点が解決できていないことを捉えることができた。また、今後活性化の目標として、一方通行化による交通規制により安全な歩行空間の確保にとまなう、まち歩きを促進で統一されていたが、その方向性に相違があることを捉えることができた。

6. 補注・参考文献

- ※1：宿泊施設を伴わない公衆浴場
- ※2：宿泊施設が保有する浴場
- [1]国土交通省：「観光立国基本法」p.2, 2007, 1
- [2]国土交通省：「観光立国推進基本計画」, p.32, 2012, 3
- [3] (財)日本交通公社：「観光動向2012」, 2011,
- [4]日本政府観光局：「JNTO 訪日外客訪問地調査2010」, 2010, 3
- [4]久保田美穂子：「温泉地再生 地域の知恵が魅力を紡ぐ」, p.3, 2008, 6
- [5]静岡県中小企業総合指導センター：「平成4年度修善寺町観光(産地)診断報告書」, pp.21~23, pp.37~41pp.45~52, pp.75~80, 1993, 3
- [6] 小林豊：「修善寺の歴史」, 長倉書店, p.3, 1987, 7
- [7]伊豆市HP：http://www.city.izu.shizuoka.jp



Photo 1. Chikurin no Komichi Photo 2. Road Congestion

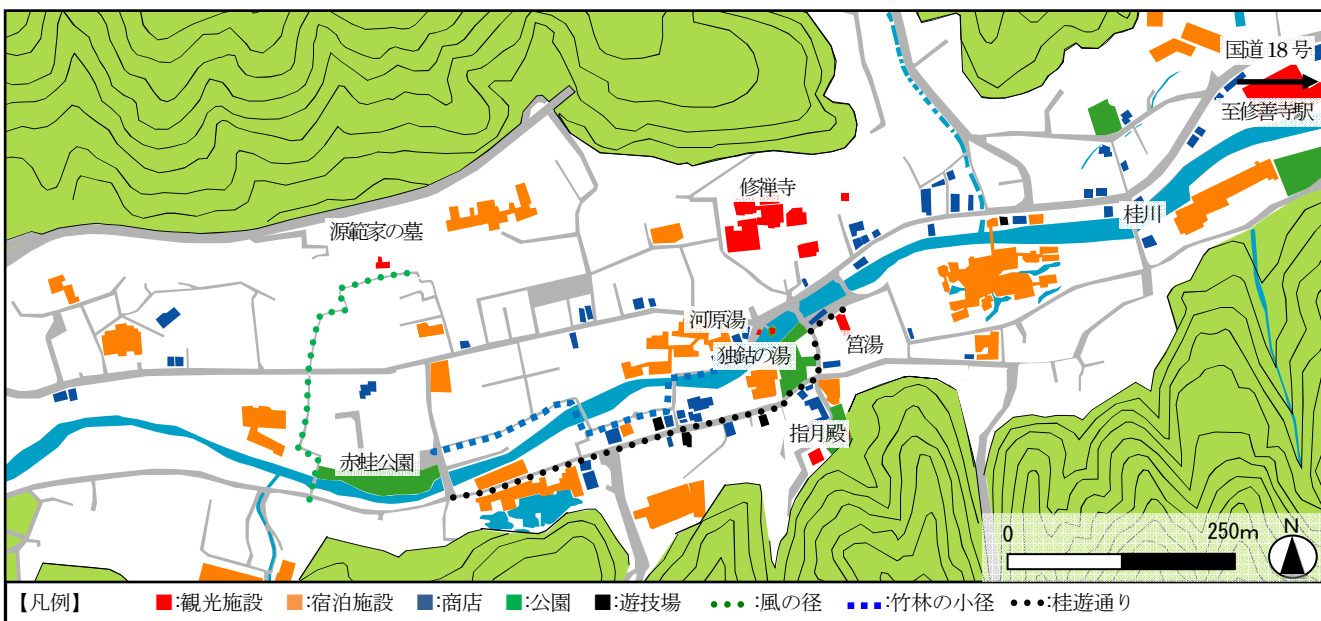


Figure1. Syuzenji hot springs map (This is original graph by authors.)